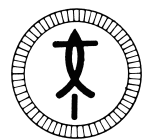


常磐会報



Vol.56
December
2025



母校は令和8年度(2026年度)に
創立110周年を迎えます

目次

常磐会会長・校長・実行委員長ごあいさつ	2～3
卒業生からのおたより	3～4
恩師からのおたより	4～6
京都高校の近況報告	7
コラム「校史を読む 三」	8
創立110周年記念事業について	8





ごあいさつ

常磐会会長 和田 雄二
(高校31回生)

常磐会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

まず初めに、この1年間を大過なく務めることが出来たのも会員の皆様方のご協力の賜物と、心よりお礼申し上げます。

さて、母校京都高校は、来年度に創立110周年を迎えます。母校創立とほぼ同時に発足した同窓会常磐会も来年度110周年を迎えます。本会会則の第2

条に「本会は母校を中心として会員相互の連絡親睦を深め、併せて各自の知徳の向上発展を図り、母校の名誉の発揚に寄与することを目的とする」とありますが、

総会は100年を超える長きに亘り引き継がれてきた、一年に一度、同窓の皆で集い、旧交を温め、親睦を深める大変有意義な機会です。是非多くの会員の皆様に総会事業へご出席いただきまますようお願いしています。

本年度の総会実行委員会は、平成5年卒業の高校45回生・定時32回生、平成18年卒業の高校58回生、平成30年卒業の高校70回生の皆様です。45回生炭本有恒実行委員長、中村公一事務局長を中心に、着実に準備を進めていただきました。コロナ禍が過ぎたとはいえ、コロナ禍で一度途切れた流れはまだまだ回復途上であり、昨年度同様、かなりのご苦勞があったものと思います。実行委員の皆様のご尽力に敬意を表し、心より感謝申し上げます。

ます。

また、本年度総会事業の開催にあたり、コロナ禍後の円安、物価高騰などの不安定な経済状況がまだまだ続く中にもかかわらず、快くご協賛いただきました皆様に対し、心よりお礼申し上げます。

皆様のご厚意は、総会事業の運営、現役京都高校生への援助にと、大切に使用させていただきます。誠にありがとうございます。

そして会員の皆様のご協力により、昨年12月に「令和6年版常磐会会員名簿」を発刊することができました。心よりお礼申し上げます。5年に一度の発刊となりますが、同窓会活動に有意義にご利用いただけます。また、2022年度より常磐会公式ホームページを立ち上げていますので、会員の皆様の情報収集、情報発信にご利用いただければと思います。

最後になりますが、母校京都高校のさらなる躍進と、同窓会常磐会のますますの発展、あわせて本年度常磐会総会の盛会を祈念し、ごあいさつとさせていただきます。

○常磐会公式ホームページURL
<https://dousoukai.site/miyako-tokiwakai/>



ごあいさつ

校長 合満 聡

常磐会の皆様にはますます御健勝のことと拝察いたします。日頃から母校に対し、多大な御支援と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。この度、総会が盛大に開催されますことに、衷心より御慶び申し上げます。あわせて、会長の和田雄二様、役員の皆様、実行委員長の炭本有恒様をはじめ京都高校45回生の皆様の御労苦に對しまして深甚なる敬意を表します。

私は今年度、京都高校の校長に就任いたしました。有為な人材を3万人以上輩出し、地域を代表する名門校として歩んできた本校の充実発展に努め、全職員の力を結集し、揺るぎない京都ブランドを不動のものといいたします。

昨年度も生徒たちは本校に学ぶ誇りを胸に心身を鍛え、多くの部活動がめざましい活躍を見せ、県大会や九州大会に出場を果たし、勉学との両立を果たす学校として際立つ存在感を示しています。また全日制、定時制から、将来の夢の実現のためそれぞれに進路に向け、本校で培った大きな翼で飛び立ちました。なお、部活動や進路状況の詳細な状況につきましては、他の紙面を御覧いただきたく存じます。

今年度は、入試改革、中高連携、高大連携を念頭に、教育活動の活性化をさらに推進し、生徒の主体性を育む活気ある学校づくりを推進します。また今年度、文部科学省からDXハイスクールの指定を受け、AI技術の発展により激変が予想される未来社会の作り手となり、多様な人々と協働で

きる素養を磨きます。激変する社会で、本校が目指すもの、守るもの、変わるものを見極め、スクールミッションを達成する中で、地域からの信頼をより一層高めめます。

そのため昨年に続き、「教師力」、「連携力」、「学校力」の向上に努めるとともに、「地域のみならず世界を舞台に活躍する人材を育成する」学校として、国際化に対応できる教育を行ってまいります。日々の教育活動の中で生徒は、探求心やチャレンジ精神を育む「グローバルOneプロジェクト」を指針とし、生き方を探り、なりたいた分を思い描き、プラスOneを積み重ねています。これからも、人生100年時代を力強く生き抜き、新しい価値を創造し、自己の可能性を高める生徒と高い教育力を持つ教職員が一体となり、可能性や夢、大きな未来を自由に描く学校であり続けたい。

また来年度は、「翼を広げ、世界にはばたけ！」をスローガンに創立110周年を迎えます。現在、和田会長に実行委員長をお勤めいただき、記念行事、記念誌編纂等を順調に進めています。すでにグラウンドの黒土や、看板の設置を先行実施していただき、機運も高まりつつあります。本校は新たな歴史を刻みます。

結びに、今後とも本校並びに後輩生徒たちに温かい御支援を賜りますとともに、常磐会の益々の御発展と会員の皆様の御健勝を祈念いたしまして御挨拶とさせていただきます。



ごあいさつ

実行委員長 炭 本 有 恒

(高校45回生)

二〇二五年度常磐会総会開催にあたり、当番回生を代表してご挨拶申し上げます。本年も常磐会に多大なるご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

私は現在、母校京都高校に勤務いたしております。学校においては、後輩たちが夢を叶えるべく奮闘する姿を日々目にしており、その支援のために力を尽くしていきたいという思いを胸に、生徒の指導に当たっています。また、常磐会および京都奨学会よりご支援をいただいで様々な取り組みをすることで、生徒は自分の進路実現に向けて成長をしています。

変化の激しい社会状況の中ですが、夢を持ち、その実現に向けて純粋に努力をする生徒の姿は、今も昔も変わりはないと感じます。生徒を取り巻く状況は、多くの同窓生の皆様が高校時代を過ごした頃とは大きく変わっています。教育を取り巻く環境や、生徒の生活の中に情報機器が多く取り入れられるようになったことも、目に見えてわかる変化の一つだと思っています。学習内容や目標なども、社会の状況に合わせて改められていく部分もあります。しかし、学び、成長する上で大切なこと、生徒が抱く思いや悩み、未来を切り拓く意志を強くすることの根本にあることはいつの時代も変わらないのではないかと思います。それは、未知を既知にしようとする好奇心や学ぶ意欲、自分の学び得たことを誰

かの役に立てたいという気持ち、幸せな生活を送りたいという思い、自分の幸せを実現するためには、周囲も幸せであつた方がよいという気づき、というものはないかと考えています。

常磐会とは、そうした思いをもつて京都高校での三年間を過ごし、卒業していった人々の集まりではないでしょうか。人それぞれに、うまくいった経験も思い通りにならなかった経験もあると思います。また、高校時代だけを考えても、よい思い出としてよみがえる人も、二度とない出たくないという人もいることだと思います。しかし、人生は高校時代で終わりではありません。その後の人生において、よりよい生き方をそれぞれに模索し、今の状況を創り出してきたのではないのでしょうか。その経験を、人生の後輩に伝えたりしてきたのではないのでしょうか。そうした考えや生き方の一部分に高校時代はあつたのだと思います。

私たち当番回生も、様々な思いをもつて今回の総会に臨みました。自ら手を挙げて、実行委員会に参加して、準備に奔走してくれた方々に、この場を借りてお礼を申し上げます。実行委員会の思いが、常磐会総会に参加していただける人々には伝わっていくのだと確信しています。そして、其の思いは、また、そこから関わりのある人々につながっていくものだと思います。その広がりや深まりが、在

校生へとつながって彼らのよりよき成長へと結びついていきます。彼らの成長は、よりよい未来へとつながり、京都高校の発展といわれる結果として残ってきたし、これからも積み上げられていくのだと思います。

総会開催にあたり、中心となって活動してくれた当番回生の皆様、力強く支えてくださった先輩や後輩の皆様、ご協賛・ご協力いただいたすべての人々に、もう一度心より厚く御礼申し上げます。

私たちも改めて、人とのつながりを実感し、思いをつなげていく活動ができました。この活動が末永い皆様のお幸せに役立つことになれば、幸いです。

今後とも常磐会および京都高校へのあたたかいご支援をいただきますようお願いをして、ご挨拶とさせていただきます。



Message from Alumni

卒業生からの
おたより1

卒業32年経って

高校45回生 角谷 玲雄



この度は2025年度常磐会総会の開催、誠におめでとうございます。開催を迎えられましたのは45回生を中心とした実行委員の皆様のおかげであり、大変ご多忙の中ご尽力いただき誠にありがとうございます。

今回このような執筆の機会をいただき大変光栄に存じます。

京都高校を卒業し32年も経っていることに驚き、高校時代から現在までを振り返ってみたいと思います。

高校時代の思い出は、勉強は課外や日々の課題など大変だったな、部活は軟式テニス部で、先輩たちの最後の大会で自分が負けてしまい県大会に進めず申し訳なくて泣いたな、修学旅行はなぜか冬の沖縄、スキーや東京旅行ができなかったと当時は残念だったが時間が過ぎてみるとあれはあれで良かったな、などなど。

そして、高校時代にはたくさんの先生にお世話になりました。中でも2、3年生時の担任であった實崎先生には大変お世話になりました。優しいさの中にしっかりと厳しさもあり、そして何と言っても、お美しい先生でした。高校時代に友人と「クラスで一番の美人は實崎先生やね」と話していたことを覚えています。

實崎先生には卒業して数年後にもいろいろとお世話になってしまいました。

私は、諸事情により現役合格した大学を中退し、小さい頃からの夢であった獣医師になるために再度受験をしました。受験時に必要な卒業証明書をまだ京都にいらつしやうた實崎先生に発行をお願いしました。結局3回もお願いに行くことになったのですが、そのときにかけられた次の言葉は今も心に残っています。

「同級生はもう社会人になってる人もいるんだから、あなたもしっかり頑張って早く一人前にならないと!」

大変愛情に満ちた叱咤激励を頂きました。そのおかげか、無事に志望大学に合格し獣医師になることができました。

あのときの先生の「愛情溢れる喝」がなければおそらく合格できなかったと思います。あらためて、實崎先生ありがとうございました。

私はその後、獣医師として兵庫県の動物病院で約8年間勤務し、その後、妻の実家のある大分県で獣医師職の県職員として勤務し

ています。現在の業務は、食肉衛生検査所での検査業務で、食肉衛生、施設の衛生管理など食の安全・安心に携わる仕事をしています。

高校時代には想像もしていなかった業務に従事し、専門職であるので現在も日々、新たな知識の習得、技術の研鑽が求められ、大変なこともあります。そこで頑張れるのは、やはり高校時代に鍛えられたおかげだと思います。

高校時代は、毎日の課題に追われ、嫌なるときも多々ありましたが、今になって思うと、若い時代にしっかりと鍛えて頂いたことは自分の財産になっていると感じています。今後も、自身に与えられた役割をしっかりと果たし社会へ貢献していきたいと考えています。

最後になりますが、京都高校、常磐会の益々の発展を祈念し、結びの言葉とさせていただきます。

卒業生からの おたより2

五十を迎え

高校45回生 爪田 一寿



本稿を草するにあたり、一九九三年三月の高校卒業から三十年以上も経ったこと、そして、馬齢を重ねてきた割に自身の為

し得たことの僅かなることを思い知らされた。また、この間、多くの出会いに恵まれてきたことに改めて気付かされた。

一年間の浪人生活を送った河合塾北九州校で出会った現代文の茅島洋一先生(故人)には、大学受験という枠を超えて公私ともにお世話になってきた。茅島先生は、有名な伝

習館被処分教師の一人であり、その処分の不当性を主張して最高裁まで争われた。(今では考えられないが)教室で煙草を片手に、テキストを遠く離れて政治や経済、哲学を縦横無尽に語り続け、講義後には(これも今では考えられないが)ジャズ・バーでハイボールを飲み交わしながら実に様々な話をして下さった。その大人風の容姿もさることながら、該博な知識と豊かな人生経験に、十八歳の私は圧倒された。

東京大学入学後、憧れの哲学者・廣松渉先生(その年の五月二十二日に逝去された)に面会する機会を作って下さったのも茅島先生だった。その後、学部から大学院博士課程に至るまで、末木文美士先生、丘山新先生をはじめとする先生方にご指導頂きながらインド哲学・仏教学を専攻したが、その傍ら、生命倫理学の研究をするようになった。大学院進学後、茅島先生の紹介で河合塾の現代文・小論文の講師となり、その縁で生命倫理学者の小松美彦先生の知遇を得て研究会に誘われ、そこで当代を代表する先生方と共に研究する機会に恵まれ、共著の末席に拙論を加えて頂く栄にも浴した。また、河合文化教育研究所を通して、茅島先生に木村敏先生や野家啓一先生を紹介して頂き、直接お話を伺う機会にも恵まれた。

大学院修了後、武蔵野大学・大学院に専任教員のポストを得て十年間、研究だけではなく教育にも携わり、狭義の専門である仏教だけでなく、生命倫理・環境倫理・死生学・ホスピス論などの講義を担当した。その間、東京医科歯科大学非常勤講師(宗教学・医療人間学)、関西学院大学客員研究員、西本願寺の教学伝道研究センター(現総合研究所)研究員なども務めさせて頂いた。

現在は、福岡に戻り、実家の寺院での法務の傍ら、新設の宝塚医療大学観光学部で専任教員として週に二日程、主として哲学・東洋

史を担当している。また、余技として各地の高校での特別講義(国語や小論文)に出講している。

ただ五十歳を迎え、残された年月が見えるようになってきた今、古典を原著で読み返すことに時間を費やしたいと思うようになってきた。学生時代、習得に苦労したサンスクリット、パーリ語、古典チベット語、古漢語、古典ギリシア語、ラテン語の文法書や辞書を片手に、老眼で霞む目で文字を追う時間が至福である。

恩師からの おたより1

45回生の皆さんへ
高校45回生 3年1組担任
香田 芳彦 先生



令和7年度常磐会総会に当番幹事として準備してこられた皆さん、お疲れさまです。第45回生の皆さん、元気にお過ごしですか。卒業以来30年以上がたち、過日同窓会

Message from
Teacher

でお会いした皆さんは、生徒のときの面影を残しとても懐かしく感じました。皆それぞれ元気に活躍していることを耳にし、大変嬉しく思います。

45回生といって、真つ先に思い出すのは沖繩への修学旅行でしょうか。それまでのスキー教室とは違って、見学主体のものに変わったことは大きな変化であって、その分大変な労力を要しました。当時は修学旅行の総務として担当したので、旅行会社との打ち合わせや学年の先生方との会議などを取り仕切り、とても苦労したことを覚えています。時折、45回生の方からは「僕らは、スキーのできない学年ですよ」などといわれたりします（ちよっと、申し訳ない感じ……）。また、校友会誌をめぐっていくと、歓迎遠足にスペースワールドに行ったことも載っていました。今や駅名以外何もうなくなってしまうましたが、懐かしいシーンをみることでできました。そう考えると、校友会誌も昔をよみかえらせてくれる貴重な資料ですね。

もう一つ思い出すのは、文化祭でのクラス展示。3年1組が、ちぎり絵で浮世絵を描き、なかでも「見返り美人」がとても好評を博したのを覚えています。実はその後何年かの文化祭でも、正門に入ってすぐのところ飾られていました。あまりの出来栄えの良さに皆が処分しきれず、確か最後は「先生のクラスの作品なので、先生しかとどめを刺すことができません。お願いします」といわれ、もったいない気持ちでしたが仕方なく処分したような気がします。

さて、わたくしの近況はというと、令和4年3月末で小倉高校を最後に退職し、今は自宅にて静かに過ごしております。2年程前から市立の図書館にも通い始め、興味のある本を探しては読みふけています。歴史ものや推理小説、エッセイもあればノンフィクションもあり普段の生活の中で気

になった分野が出てくれば、そこを掘り出していつかは読みあさっている感じがな。その他にも、パソコンで映画を見たり、ドラマやドキュメンタリーなどの動画を見たり、好きなことをやって過ごしています。時には、日帰りのバスツアーに参加したり、近くに出かけて行ったりもしています。学校現場から離れて、少しのんびりしているといったところでしょうか。数学から離れて3年半、徐々に忘れつつあるので少し思い出すくらいには勉強しようかなと考えたりもします。京都高校を離れてから24年になりますが、毎年送られてくる「常磐会報」が本校の状況や活躍を知る楽しみとなっています。今後の同窓生の健闘を祈っています。

恩師からの おたより2

ありがとうございました

高校45回生 3年3組担任

亀田 陽一 先生



今年度も常磐会総会が盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。当番期にあたる

四十五回生の皆さん

お疲れ様です。また、ありがとうございます。卒業してから三十有余年、それぞれ自分の世界をつくられていることと思います。コロナ後の社会の大きな変化の中で、同窓会活動がやりづらい状況になっていますが、この厳しい環境の中で当番回生として与え

られた使命を果たすべく、積極的に活動されている皆さんは、充実した現在を生き、過去をプラスに評価し、未来に明るい展望を持てる方々といえるでしょう。みんなの力で一つのことを成し遂げることににより、さらに自信を持てるようになると思います。残念ながら今回は縁のなかった皆さんも次の機会があれば是非関わりを持っていただきたいと期待しています。

皆さんにとつての京都高校は、時代が変わっても永遠に母校であり続けます。同窓生として未永く京都高校と後輩を温かく見守っていただきたいと思います。

さて、当時のことを振り返ってみますと、教科の関係もあり、二年次から畔津学年に加わり、授業は文系四クラスでした（三年次）。三組の皆さんとの出会いは新鮮で和やかなものであったように思い出されます。京都高校十一年目で四回目のクラス担任。私にとつては学校の雰囲気が大きく変わったように感じられ、自分を見つめ直していた時期でしたので、担任ができることを素直に喜んでいました。文系クラスで女子が多く、ふんわりとまとまっているという感じが強いのですが、なかなか個性豊かな皆さん方と楽しい二年間を過ごさせていただきました。結果的にこれが教員生活最後のクラス担任となるとは思っていませんでした。

その後も多くの皆さんのお陰で今日という日を迎えられました。今回の寄稿で若い皆さん方との関係性も薄れ、いよいよ老境に入っていくことになるのでしょうか。これまでご縁をいただいた方々に感謝しながら、残された時間をいかに心穏やかに過ごすかがこれからの課題かと。

現在は週二日の健康教室、高齢化・過疎化の進む地域の中の活動、そして、いつの間にか十年を過ぎてしまった野菜づくり

の真似事……。脳も体も衰えていく中、時の流れに身を任せ、自然のリズムに合わせながら悠々自適の生活をしていることにしておきましょう。

結びになりましたが、皆様のご多幸と京都高校の益々のご発展をお祈り申し上げ、筆を擱きたいと思えます。

恩師からの おたより3

高校45回生の皆さんへ

高校45回生 3年6組担任

本田 逸郎 先生



高校45回生の皆さん同窓会総会の開催おめでとうございます。思えば私が京都高校を離れてもう23年という月日が流れて

います。しかし、それほど昔のことと感じられない。不思議なものです。45回生は、商業科被服科が最後となる学年でした。私は、1年生と2年生は被服科の担任で、3年生では、3年6組の担任をさせていただきました。被服科の皆さんは、全員女性でしたので、身だしなみなど気を使った覚えがあります。ただ、あまり気づいてもらえなかった気がします。明るくまとまりのあるクラスでしたが、武末さんを病気でなくすという悲しい出来事がありました。皆さんの持ち前の明るさで何とか乗り切ったと記憶しています。

3年6組は、個性の強い元気なクラスでした。それぞれの希望する進路実現に向けて最大限の努力をしたつもりですが、わかってもらえていたかどうか。学年主任の畦津先生は進学に対してとても熱心な方でした。一本気な性格は、時に誤解されることもあ

りましたが、見習う事が多く、いろいろなアドバイスもしていただきました。私が京都を離れてから、1度もお会いできなかったのが残念です。

話は変わりますが、大正9年といえますから今から105年前のことです。洋画家の田崎廣助氏は、当時新設校の京都高校（当時は京都高等女学校）の初代美術教師となる予定だったそうです。しかし、羽犬塚の駅から列車に乗る際、行橋行き切符を買わず東京行きの切符を買い、画家になるために、たいした当てもない東京に行く決意をしたそうです。当然仕事を紹介してくれた方の顔を潰すことになり、厳格なお父さんは氏を勘当したそうです。当時県立の女学校に就職するのは、かなり幸運なことであつたようです。この話は、田崎氏の自伝である「東洋の心」に書かれています。田崎廣助氏は、後に洋画家として大成され、文化勲章を受章されています。田崎氏が本校の教壇に立たれることはありませんでしたが、この事は、後の私たちに、自分の選んだ道を信じ、誠実に努力することの大切さを教えてくれているのではないのでしょうか。

私は、退職を機に香春町の郷土史会に所属し、郷土の歴史を勉強しています。意外にわかっていないことも多くあります。様々な史料から想像をめぐらすことに面白さを感じ、これからも頑張ってみようと思っています。45回生の皆さんは、これからそれぞれの立場で中樞を担われて行くことだと思います。公私ともに忙しい日々を送られることと推察いたします。どうか体に気を付けて頑張ってください。幸運を祈っています。

恩師からの おたより4

懐かしい日々

高校45回生 3年7組担任

實崎 智恵美 先生

四十五回生の皆さん、お元気ですか。皆さんが京都高校を卒業されてもう三十年以上の年月が過ぎてしまったとは…。皆さんが在学中の頃は私は三十代半ば頃。あの頃の京都生は元気で、エネルギーがあふれていた。今の皆さんもまだそうかもしれませんが、体験学習や九重キャンプ、沖繩への修学旅行、校内での文化祭や体育祭、どのシーンにも、長い授業であっても笑顔があふれていたように思います。



今年一月三日の同窓会でお会いした四十五回生の皆さん、年月は随分たつているのに、顔を見て話していると在学中のことが自然と思ひ出されるのが不思議でした。

それぞれに社会のさまざまな分野で活躍されている様子もうかがえて頼もしくなっていました。私は卒業時三年七組の担任でしたが、あの頃のメンバーが会の司会をしたり、お世話をしたりしている様子に、みんな五十歳なのだなあとしみじみ思っていました。

さて、自身の近況を少し話したいと思っています。私は現在六十九歳。三十八年間の教員生活の中で、三十三年間を母校でもある京都高校で勤務し、六十歳で定年退職。今は完全にフリーです。学校という世界しか知らずに過ごしてきた、退職後はこれまでに知らなかった世界を知りたい、してみたいことをしてみたい、と思いました。そこでまずしたのが、旅。東京、大阪で子どもたちの手伝いをしながら生活し、行橋とは全く異なる都会の生活をしながら、美術館めぐりをしたり、大学時代の友人に会ったり、孫たちの保育園や学校を見学したりという日々を、特に東京には毎年四月に滞在してさまざまな経験をしました。また奈良を歩き、京都の神社仏閣を訪ね、高野山、伊勢神宮にも参詣。古典が好きな私は京都には年に二、三回はテーマを決めて旅行しています。たとえば、「建礼門院徳子の出家と晩年」、「京都の紅葉名所で観光客が少ない場所」など。退職後に京都検定も受けて、現在は二級。学ぶことは年を重ねても楽しいものです。さらに、我が家の庭に古典に登場する植物を植えて育てる日々も癒やしくなっています。梅、馬酔木、山吹、芍薬、桔梗、萩、女郎花、藤袴、など。昨秋は満開の藤袴にアサギマダラがふらりと飛んできてくれて、楽しませてくれました。行橋でも田舎の方に住んでいるので大変なこととありますが、今では地域の神社掃除、空き缶拾いなどのボランティア活動も楽しむ日々です。

来年は古来稀な年齢、古希七十歳を迎えることになったわけですが、この年になって今さらながらこれからどう生きていくべきか、とまだまだ考えている自分があります。「あなたの身体はあなたが食べたものによってできている」などと言われますが、最近考えているのは「人生は選択でできている」ということ。これまでを振り返ってみても、その時々選択、決断によって自分の人生は成立してきたのだと思います。そしてそれはずっと続くものです。これはみなさんも同じはず。よりよい人生などというものがあるのかはわかりません。さまざまなものを選択しながら、失敗したときにはまた別の選択をして生きていく、それしかないのではないかと。現代はたくさん人の選択肢があるいい時代です。真剣に考えていけば、自分の前に開ける世界が見えてくる気がします。

みなさんの今後の人生が今よりさらによいものとなることを願っています。



京都高校の近況報告

部活動主な戦績

※令和6年4月～令和7年3月までの期間での県大会以上

《体育部》

バレーボール部（男子）

○令和6年度福岡県高校総体バレーボール選手権大会北部ブロック予選会
8位（県大会出場）

バスケットボール部（男子）

○令和6年度福岡県高校バスケットボール選手権大会
県大会ベスト24
○令和6年度福岡県高等学校バスケットボール新人大会北部ブロック予選会
優勝（県大会出場）
○令和6年度福岡県高等学校バスケットボール新人大会
県大会ベスト8

サッカー部

○令和6年度福岡県高校サッカー新人大会北部ブロック予選会
9位（県大会出場）

バドミントン部（男子）

○令和6年度福岡県高等学校総合体育大会バドミントン選手権大会
男子団体戦 県大会ベスト8
○令和6年度福岡県高等学校バドミントン新人大会 男子団体戦
県大会4位（九州大会出場）
★令和6年度第25回全九州高等学校バドミントン高鍋大会
男子団体戦 優勝

卓球部

○国民体育大会卓球競技少年の部 福岡県北九州市支部予選会
女子シングルス ベスト32（県大会出場）
○令和6年度福岡県高等学校新人卓球大会北部ブロック大会
男子シングルス ベスト32（県大会出場）
女子シングルス ベスト32（県大会出場）
女子団体 7位（県大会出場）
○令和6年度全国高等学校選抜卓球大会（個人の部）
福岡県予選出場

水泳部

○福岡県高校総体春期選抜選手権水泳競技大会
50m自由形 1位 100m自由形 5位
★第72回全九州高等学校水泳競技大会
50m自由形13位 100m自由形19位
○令和6年度福岡県高校総体水泳競技選手権大会
50m自由形 3位 100m自由形 8位

《文化部》

美術部

○令和6年度福岡県総合文化祭 美術・工芸部門
奨励賞

囲碁・将棋部

○第48回福岡県高文化祭 将棋部門
男子個人の部 3位

吹奏楽部

○第39回福岡県高文化祭北九州地区音楽会
優秀賞（県大会出場）
○第57回北九州アンサンブルコンテスト
金賞（県大会出場）

放送部

○令和6年度福岡県高校放送コンテスト北九州地区大会 朗読部門
3位（県大会出場）
6位（県大会出場）
○令和6年度福岡県高校放送コンテスト福岡県大会 朗読の部
6位
★第71回NHK杯全国高校放送コンテスト 朗読部門
出場
○令和6年度福岡県高文化祭放送文化部門北九州地区大会 朗読部門
優勝（県大会出場）

写真部

○令和6年度第39回福岡県高等学校総合文化祭写真展
入選

書道部

○令和6年度第39回福岡県高文化祭書道部門北九州地区揮毫大会創作部門
優秀賞（県大会出場）

令和6年度 進路状況

国公立大学合格者数（既卒者を含む）

設立	大学名	学 部	人数
国立	帯広畜産大学	畜産学部	1
	広島大学	総合科学部	1
		情報科学部	1
	愛媛大学	工学部	1
		教育学部	1
	山口大学	工学部	2
		理学部	4
		ひと・まち未来共創学環	1
		共同獣医学部	1
		経済学部	1
	九州大学	人文学部	1
		工学部	1
		理学部	1
	九州工業大学	工学部	12
		福岡教育大学	教育学部
	熊本大学	教育学部	2
		法学部	1
工学部		1	
大分大学	医学部	1	
	理工学部	4	
	教育学部	2	
佐賀大学	理工学部	1	
長崎大学	芸術地域デザイン学部	1	
	多文化社会学部	2	
	環境科学部	1	

設立	大学名	学 部	人数
国立	宮崎大学	地域資源創生学部	1
		工学部	2
		農学部	1
	鹿児島大学	水産学部	1
		法学部	1
	鹿児島大学	文学部	1
	琉球大学	体育学部	1
	琉球大学	工学部	1
	長岡造形大学	造形学部	1
	東京都立大学	法学部	1
公立	島根県立大学	看護栄養学部	1
	山口東京理科大学*	工学部	1
	下関市立大学	看護学部	4
		経済学部	5
	福岡女子大学	国際文理学部	1
	北九州市立大学	文学部	2
		経済学部	1
		法学部	1
		地域創生学群	4
	福岡県立大学	国際環境工学部	2
		看護学部	1
	熊本県立大学	人間社会学部	5
		環境共生学部	1
	長崎県立大学	地域創造学部	1
		情報システム学部	1

*正式名称：山陽小野田市立山口東京理科大学

私立大学合格者数（既卒者を含む）

大学名	人数
国際医療福祉大学	2
日本大学	2
明治大学	1
創価大学	2
関東学院大学	1
神奈川大学	3
同志社大学	1
京都美術工芸大学	2
立命館大学	6
龍谷大学	2
大阪経済大学	1
関西外国語大学	3
近畿大学	13
関西学院大学	6
甲南女子大学	1
岡山理科大学	2
川崎医療福祉大学	1
広島国際大学	3
広島文教大学	5
東亜大学	1
梅光学院大学	6
九州栄養福祉大学	10
九州看護福祉大学	1
九州共立大学	6

大学名	人数
九州国際大学	7
九州産業大学	40
九州情報大学	1
九州女子大学	14
久留米大学	3
久留米工業大学	5
産業医科大学	4
純真学園大学	4
西南学院大学	10
西南女学院大学	7
中村学園大学	3

大学名	人数
西日本工業大学	33
福岡大学	48
福岡看護大学	1
福岡工業大学	42
福岡国際医療福祉大学	3
福岡女学院大学	2
長崎外国語大学	1
長崎国際大学	2
崇城大学	10
別府大学	2
日本文理大学	3

上級学校合格状況・就職状況

令和6年度	現役	既卒	合計
国立大学	56	4	60
公立大学	33	0	33
私立大学	317	9	326
文科省管轄外	2	1	3
公立短大	3	0	3
私立短大	2	0	2
各種学校	23	0	23
事務	2	0	2
営業	0	1	1
技能	1	1	2
公務員	1	1	2
合計	4	4	8

定時制 近況報告

はじめに、令和6年度の進路状況をご報告します。令和6年度は、四年生六名、三年生一名が修了しました。七名のうち、在学生の仕事を継続している生徒もいますが、卒業後の進路は進学が一名、学校を通じて就職が二名でした。この就職については、九月に行われた生活体験発表北九州地区大会に、本校から一年生が一名出場しました。これまでの自身の経験をふまえて発表し、県大会へ出場し「審査員特別賞」を受賞しました。部活動のうち、文化部関係では、行橋市美術展覧会書道部門において、三年生二名が高校生特別賞、三年生六名が入選となりました。また、行橋市人権啓発作品（書道の部）において、四年生一名が入選しました。さらに、福岡県高等学校書道教育研究会主催授業作品展では、三年生六名が受賞を果たしました。体育関係では、福岡県高等学校校定時制通信制秋季体育大会ソフトテニス大会において一年生一名が出場しました。本年度は、新入生二十三名を迎え、全校生徒六十六名でスタートしています。生徒たちは、日々仕事に勉強に全力を注いでいます。

校史を読む 三

「わが校の六十年」アルバム

山内 公二（高校11年生）

本校は大正六年（一九一七）の開校で、令和八年（二〇二六）は開校一〇〇年の記念すべき年となる。今回の「校史を読む」は、昭和五一年（一九七六）に発行された「わが校の六十年」アルバムを紹介したい。

B5判ヨコ型、一四七ページの上製本で、「女学校編」、「高等学校編」、「六十年譜」という構成で、大正時代四二枚、昭和初期の女学校時代二六六枚、昭和戦後の高校時代三三七枚の合計六五五枚の写真と学校内配置図などが掲載されている。

文章を読むのではなく、写真を眺めるだけなので気軽にページが進む。

大正時代の写真を見ると、男性教師は洋服だが、女教師と生徒はみな羽織、袴。制服、体操服、作業服の変遷も紹介されている。セーラー服に移行したのは昭和二年（一九二七）入学の女学校二三回生からだった。

「太平洋戦争前後」のコーナーでは、戦勝祈願や防火演習、救助訓練、女子挺身隊の結成や勤労奉仕など苦難の様子が伝わる写真が並んでいる。

「新制高校への新しい出発」のページは、昭和三年（一九四八）四月の記念すべき男女共学第一回入学式の写真を、「学園生活」のコーナーでは、運動会や文化祭、クラブ活動のにぎやかな様子を見るのは楽しい。

学校施設の建設、整備の経緯を見ると、女学校校舎の完成（大正一二年）、戦後の校舎増築（昭和一七年）、運動場拡張（昭和三年）、講堂兼体育館の完成（昭和三四四年）、本館と図書館の完成（昭和三九年）、プール、食堂の完成（昭和四一年）、校舎の増改築の完成（昭和五一年）などを見ることが出来る。その時々の校舎の航空写真を見ると、学校周辺のまちなみも大きく変わったことがわかる。

学校と常磐会に提案だが、今後の周年記念事業など、機会があれば記念写真帳の刊行をしていただきたいとお願ひ申し上げたい。

創立110周年記念事業について

1917年（大正6年）、前身である福岡県京都郡立京都高等女学校として開校して以来、母校は令和8年度（2026年度）に創立110周年を迎えることになりました。

この記念すべき年を迎えられるのは、ひとえに皆様のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

つきましては、下記に記念事業の予定スケジュールをご案内いたします。

創立110周年記念事業（令和8年度予定）

令和8年5月16日	創立110周年記念招待試合 京都高校内 野球：京都一育徳館 その他調整中（サッカー・バスケットボール）
5月下旬	創立110周年記念体育大会
7月2日	創立110周年記念芸術鑑賞 北九州芸術劇場 ミュージカル「真昼の星めぐり」
9月上旬	創立110周年記念文化祭
10月31日	創立110周年記念式典 創立110周年記念講演会 講師 清永 聡 氏（高校40回生 S63卒）

訂正・調査専用ページを開設しました。

- ・同封の振込用紙のQRコードからご自身のページをご覧ください事ができます。
- ・ご自身の住所等の訂正の他、同級生等の住所不明者をご確認いただけます。
- ・住所不明者の新住所は必ずご本人様にご確認のうえ、常磐会事務局へお寄せください。

【コンビニからの振込】【スマートフォンでの決済】に対応しております。

【コンビニ決済】

同封の振込用紙にて、全国のコンビニエンスストアでお支払いが可能です。

【スマートフォン決済】

PayPay au PAY PayB

決済アプリ（PayPay、au PAY、Pay B）から請求書払いを選択いただき、同封の振込用紙に印字されたバーコード（ご依頼人・通信欄）を読み込んでください。払込金額2,000円を確認して支払い手続きをお願いいたします。

※注意事項：決済画面にて「サラト」と表示（右写真参照）されますが、システム代行会社の名称です。「常磐会」の会費納入で間違いございません。

